

## 病棟の壁に、コロナ禍の気持ちを共有する窓が生まれる



新型コロナウイルス感染症の影響により、筑波大学附属病院でも、入院患者さんとの面会禁止の状況が続いています。

閉塞感の高まる病棟では、この状況を切り抜ける手段として、「つらい気持ちや頑張る気持ちを共有する場をつくりたい」という看護師の発案で、アートコーディネーターが病棟の壁面に窓を描きました。

患者さんやスタッフより窓に寄せられたメッセージで、支えあいの気持ちが生まれています。



## ゴ布林博士の ゴ布林レシピでつくろう！

小児病棟にてボランティア活動をする、アーティストの「ゴ布林博士」こと小中大地さん。新型コロナウイルス感染症の影響で病棟への立ち入りが難しいなか、小中さんが考えたのは、自分がいなくても取り組めるワークショップのレシピをつくり、公開すること。その一部を紹介します。

おこさまも、おとなも、かたへも。

ゴ布林レシピは筑波大学附属病院のFacebookでも公開中！



## information

4月から、新しいアートコーディネーターが加わりました。



松崎仰生（まつざきあおい）です。どうぞよろしくお願いたします！